高規格道路の整備により
災害に強い国土幹線道路ネットワークを構築する

5か年加速化対策

国土強靱化
NATIONAL RESILIENCE

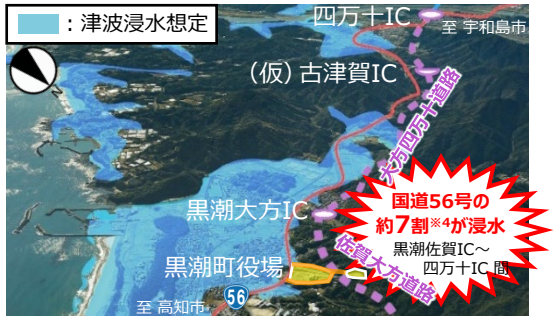
災害時に効果が見込まれる事例

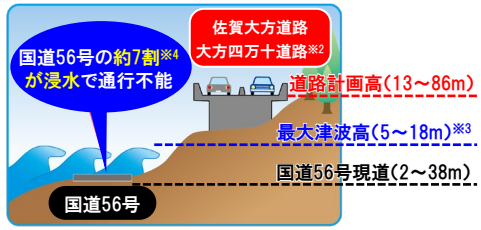
概　　要：国道56号は、南海トラフ地震による津波浸水が想定されており、緊急輸送道路としての機能確保が必要であったため、四国横断自動車道　阿南四万十線 四万十町中央～四万十間の整備を推進する。

対 策 名：51　高規格道路のミッシングリンク解消及び4車線化、高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化等による道路ネットワークの機能強化対策＜5か年加速化対策＞【国土交通省】

【事例】四国横断自動車道　阿南四万十線（四万十町中央～四万十）

- 実施主体：国土交通省　四国地方整備局　中村河川国道事務所
- 実施場所：高知県高岡郡四万十町～四万十市
- 事業概要：四国横断自動車道に並行する国道56号は、南海トラフ地震による津波浸水が想定されており、緊急輸送道路としての機能確保が必要であった。そこで、四国横断自動車道 阿南四万十線 四万十町中央～四万十間（事業延長33.1km※1）の整備を推進する。
- 事 業 費 ：1,613億円※1
  （うち5か年加速化対策（加速化・深化分）37億円）
- 効　　果：並行する国道56号は、南海トラフ地震に伴う津波浸水が想定されており、黒潮佐賀IC～四万十IC間の約7割の区間が浸水で通行不能となる。
  本道路を整備することで、津波に対して十分な高さを確保し、大規模災害時に安心・安全で信頼性の高い道路ネットワークの確保を図る。





※1）開通済みの片坂バイパスを除く
※2）窪川佐賀道路に並行する国道56号は、内陸を通るため津波被害は想定されていない
※3）出典：南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測（H24.12　高知県）
※4）佐賀大方道路・大方四万十道路に並行する国道56号のうち、最大津波高（H24高知県推定）と現道高を比較し最大津波高より低い区間の延長割合